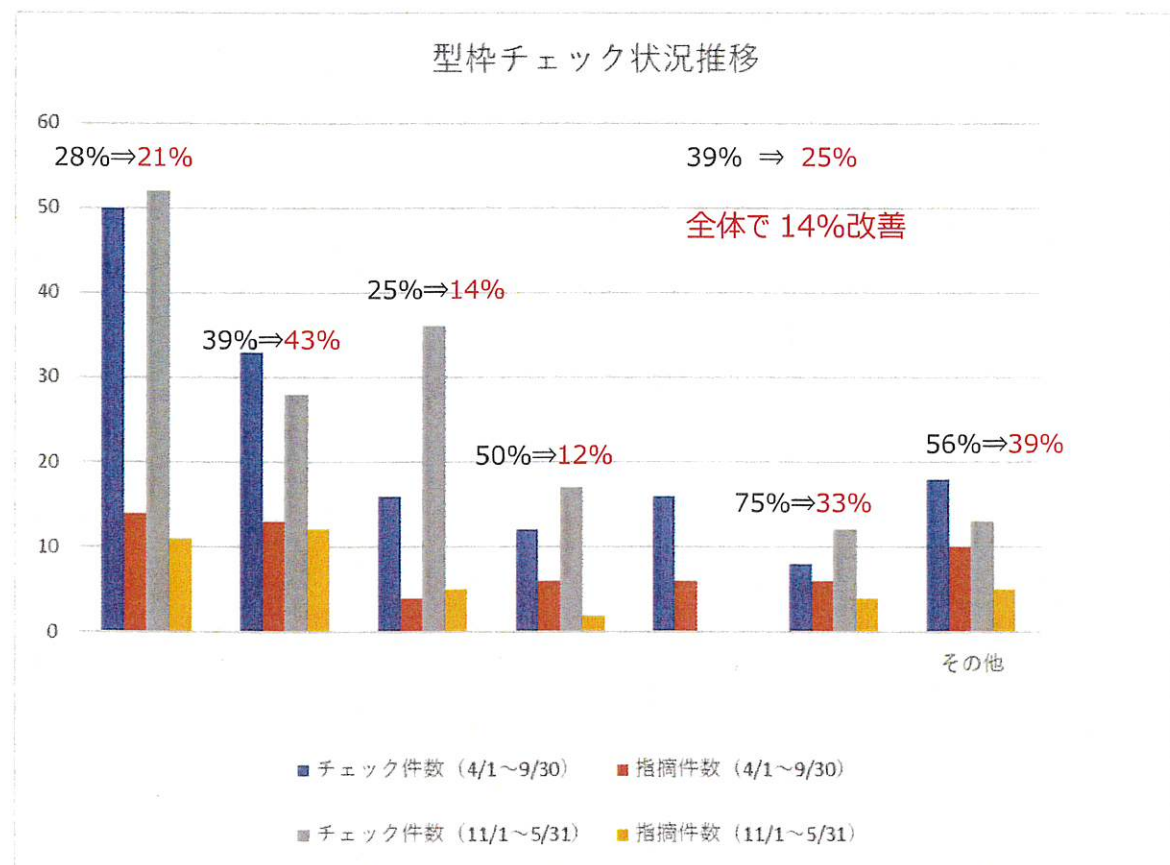


I 現況報告

① 型枠

- ・指摘件数は前回報告（'21/4/1～'21/9/30）から今回報告（'21/11/1～'22/5/31）までで約14%改善された
- ・全体として、かぶり厚さ不足が多く、人通口未施工、スリーブ未施工、アンカー抜けが多く見られる。
- ・ダブル幅の芯の位置、基礎幅の変更、無筋部分の処理、金物の変更は、現地で職方様に確認しますが、監督様と設計者・監理者様で確認いただいているという前提での確認となるので注意。
- ・底盤ひび割れはチェックまでに補修完了していれば指摘にはならない。
- ・寸法の芯をどこでとらえるかの相違が原因のようだったが、そのままだと再発の可能性がある。プレカット図との照合、図面上での注意喚起をしていると安心。



21.4/1~'21.9/30			
	チェック件数	指摘件数	指摘割合
	50	14	28.0%
	33	13	39.4%
	16	4	25.0%
	12	6	50.0%
	16	6	37.5%
	8	6	75.0%
	18	10	55.6%
全体	153	59	38.6%

21.11/1~'22.5/31			
	チェック件数	指摘件数	指摘割合
	52	11	21.2%
	28	12	42.9%
	36	5	13.9%
	17	2	11.8%
	12	4	33.3%
	13	5	38.5%
全体	158	39	24.7%

全体で14%改善

② 防水

- ・前回報告（'21/4/1～'21/9/30）から今回報告（'21/11/1～'22/5/31）までで、約4%改善された。
- ・指摘の多くは、配管や配線の貫通部処理（すきま・テープの張り順）、キズ、隙間、破れである。
- ・バルコニー手摺、パラペットの三面交差する箇所は、テープ補強を。
- ・テープの貼り順、補強の仕方など再確認をお願いします（瑕疵保険の資料参照）
- ・軒天、梁先の防水紙は、大工仕事として先施工した方がおさまりが良い時がある。（要調整）特に断熱吹付の相手になる防水紙がない場合は、断熱性能が確保できず、引き渡し後に結露等のトラブルになる可能性もある。
- ・バルコニードレン施工が確認できない時は写真の提出。
- ・仕上げ材が施工されている場合は「施工者様で確認」とする。

※参考

- ・他現場では屋根と外壁の取り合い部（下屋、壁で止まる屋根部など）において指摘が多発しています。重ね不足、隙間などがあると、雨漏りになる確率が高い場所なので、留意ください。
- ・屋根および、パラペット天においては、釘部分からのわずかな隙間から漏水することがある

